

☆遺族来日スケジュール

▽二一／一（金）

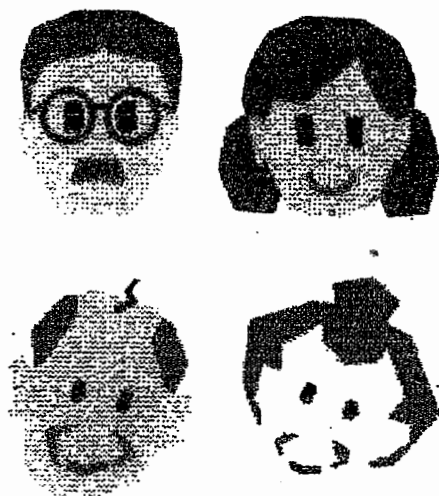
遺族下関到着
県庁表敬訪問
宇部市役所表敬訪問

▽二一／二（土）

西光寺訪問
追悼式
市民交流集会
懇親会

▽二一／三（日）

遺族下関より帰国



韓国遺族

追悼式参列者一覧

柄続	者	犠牲	遺族	列参	
甥	郎	金	亨	金	会長
甥	王	楊	玄	楊	副会長
息子	東	金	鍾	金	
息子	三	朴	道	朴	
息子	成	全	錫	全	
息子	陽	崔	泰	崔	
甥	相	洪	三	洪	
甥	相	洪	二	洪	
娘	大	曹	瀬	曹	
	福		順		
			徳		



太陽産業が
追悼碑建立基金
50万円寄付！

建立碑慰霊 役立てて
長炭に 太陽産業が「刻む会」へ

小野田市新有町、太陽産業の杉山政夫社長（左）は、宇部市の「長炭の水非常を歴史に刻む会」（山口武）代表に、慰霊碑建立基金として五十万円を寄付した。

贈呈式は同社であり、杉山社長が、山口代表、会計の島崎史さんに浄財を手渡した。杉山社長は「宇部、小野田市は炭鉱で発展した。長炭炭鉱のこの追悼式のニーズで知り、犠牲になった人々の事を慰めるために使ってもらえれば」と話した。



（左から）山口代表、手渡す杉山社長、太陽産業（右）

（中部時報）

同炭鉱の水没溺死事故は一九四三年二月に発生し、朝鮮半島出身者百三十七人を含む百八十三人が亡くなった。金員の遺に刻み、現地に建立する事が計画されている。浄財は有効に使われていた。山口代表は「今年も進んできた」と話した。

一刻も早く慰霊碑建立を

海底炭鉱事故の犠牲者 宇部の山口武信さん

2002
2/6
山口



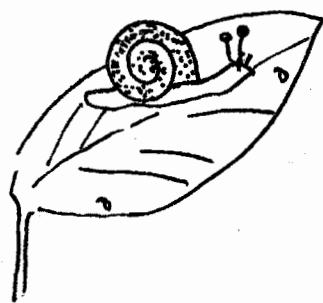
話すのは戦時中、宇部市の旧海底炭鉱・長生炭鉱で起きた水没事故を後世に伝えようと十一年前に発足した「同炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の山口武信会長(モロ)さん。宇部市。事故で犠牲になった韓国人遺族とともに県庁を訪れ、支援協力を要請した。

「犠牲者のうち朝鮮半島から強制連行された人たちが百三十七人が含まれ、いまだに遺骨も引き揚げられていない。同会の遺族者探しから遺族会もつぐられ、現場近くの海岸に慰霊碑を建てるのが運動の柱になっているが、用地取得が難航している。」

「同じような事故であつたが私達には遺骨もない」。遺族会は借地でもよいとして地権者と話しているが、兄弟七人の権利が複雑に絡んで進んでいないという。

「犠牲者には日本人もいて沖縄出身の人も五人いた。碑には同じように一緒に名前を入れないか。慰霊碑建立は韓国のためだけでなく日本人のためでもある」。自分も高齢になったことを李さんの死で痛切に感じたという山口さん。「来年はいいかもしれない」という気分で運動を進めたい」ときっぱり。

「財政的にも刻む会を支えてきてくれた李元宰さんが昨年亡くなるなど私達にも遺族の方々も年をとる。一刻も早く慰霊碑建立を実現したい」とた。遺骨を並べて交渉し



2002年度遺族招聘カンパ会計報告

2002/2/15

収入		支出	
遺族招聘カンパ	539,793	遺族招聘旅費	180,000
追悼式会場カンパ	22,180	宿泊費	52,400
歓迎懇親会会費	32,000	食費	61,004
計	593,973	観光・お土産代	19,400
		西光寺お礼	10,000
		市民交流会会場費	1,000
		歓迎懇親会	68,456
		事務費・雑費等	48,115
		計	440,375

年会費・カンパをよろしくお願いします！

各紙
記事

慰靈碑建立に協力を

旧县长炭鋌
焉故罹牲者

朝鮮半島出身者遺族ら訴え



慰靈碑建立へ支援要望
金会長らが市役所訪問

建立へ支拂
金会長らが市役所訪問
八十三人が参加し、市役所を訪問し、市役所長らと懇談した。



新編 信一です
人生、川の流れのように！
下関三原自衛隊中隊



自己紹介する演説にち 〇所長所
「市民の
機を導く
的にも
らち
はりな
演説
とほす
はす

追悼碑建立に支援を

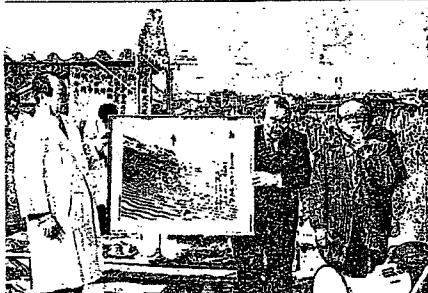
韓国人遺族ら冥福祈る



使用模式によって資料を

遺族ら50人悲しみ新たに

旧長生館 排気筒へ花束ささげる



山口の甲斐生旅城
重故60周年を追悼

山口市三平平
山田町三十番一
の市芸術舞に出版
販路を同刻ひ金に
砂浜を歩いて、故郷
へかたづける緩性で
かいた。

全巻は出口金貨と出
る同様に説明する
ん(注) 西沢俊佐生前商
近(注)

山口の旧長生炭鉱
事故60周年を追悼
佐々木参列

事故60周年
日本人遺族も参列

[illegible][illegible][illegible]

慰靈碑建立願う

[illegible]

SECRET

慰靈碑建立協力を
60年前の宇部
長生坂小学

協力を

[illegible]

韓国遺族8人も出席

震災事故60年目の追悼式



暖房が熱る海を眺めて悲しむ漁師

長生炭鉱水非常60周年犠牲者追悼式

宇部長生炭鉱水非常を歴史に刻む会 ■ 島 敬史

撮影 ■ ペ 東録

今から60年前の1942年2月3日、山口県宇部市西岐波の海底炭鉱、長生炭鉱において「水非常」が起こった。海岸から1200メートル沖の海底坑道の天盤が破れて海水が浸入、一瞬にして水没し作業中の坑内作業員183名が犠牲となった。その中の136名は、朝鮮半島から強制連行されてきた韓国人であった。一度の事故でこんなに多数の強制連行された韓国人が生命を失った出来事は外にない。日本人作業員を含めて犠牲者全員の遺骨は現在もなお冷たい海の底に眠っている。

私たちは60年前のこの事故事実を調査し記録にとどめ、また現地に私達日本人の謝罪の意と犠牲者の実名を記した追悼碑を建てたいと10年にわたり運

動を続けてきた。一方、毎年韓国から遺族を招いて事故の起こった2月3日前後に追悼式を行ってきた。今年も多くの市民のカンパと支援を得て、韓国より8名の遺族を迎えて、2月2日（土）長生海岸で追悼式を行った。今年初めて来日した遺族は3名、うち1名曹順徳さんは事故当時15歳で長生炭鉱の杜宅にいたとのこと、当時の生々しい状況を聞くことができて全員また思いを新たにした。これまで10年、私達「刻む会」と遺族会との間に立って全てを捧げて運動を支えて下さった李元宰さんを昨 year 天に送り、私



あいさつする水非常のことを描いた絵を遺族会に贈った田村三平さん。左端が遺族会会長の金亨洙さん。右から3人目水非常を刻む会会長の山口武信さん

達は改めて運動の成果を勝ち取り追悼碑の一日も早い建立を心に誓った。



海の底に眠る犠牲者に花を捧げる遺族たち



追悼の祭祠（チェサ）を行う遺族の人たち

弔 辞

毎年くりかえすように、今日も関釜連絡船に乗りこみました。楽しい旅ではなく、悲しい胸の痛みが思い浮かぶ悲しい旅行であります。冷たい風が吹きつける船上に立って帰る事の出来ないお父さんを考えます。今日に限って特に海が荒れるのです。あまりにも久しく訪ねる息子をはなさまいと波に心を乗せたのでしょうか。

船縁にまたもや波が打ちます。お父さんが懐かしそう故郷の様子が船縁を打ち砕く音により現れています。聞こえますか？ あの波の音が。その波の音はお父さんを切に呼び息子の泣き声でしょうか？ そうでなければ、息子を探し、家族を懐かしく思い

泣いている父の泣き声でしょうか？ もう一度波が押し寄せます。近づくと波にお父さんの姿は跡形もなく、去ってしまいます。お父さん！ 荒れ狂う波が恐ろしくて姿を消されたのですか？ 息子が見たくないから去って行かれたのですか？ あるいはあの荒れ狂う波がお父さんに危害を加えようとした時の人達。残忍な日本軍ではなかったのでしょうか。それで消えたのですか？ 再び波が押し寄せてくるけれども一度去ったお父さんの姿は見受けられません。今再びピーヤが見える海辺にて歴史を刻む会の会員達と共にお父さんに捧げる供養を行います。早10年が過ぎても同じことをやっています。なんの発展もなく、なんの希望もないけれども刻む会の会員達は絶えず毎年こうして

力を注いでいます。この崇高な姿を見守る私達は、ここ日本の地にてやれる事が見当たりません。悲惨で悲しくそしてまた悔しいです。お父さん今日が過ぎればこの海岸ではまた何もなかったかのように平和で静かになる事でしょう。ところが私達ははっきり記憶します。彼らがお父さんに行った数々の悪態を……。今日の日本政府がどのように背を向けている現実を……。まだ良心のある日本の方々と共にしているという事実を……。この全ての事実を記憶し後世に知らせます。彼らが反省し、お父さんが休まれる空間が備えられれば、その時こそが真の和解と平和の時代が始まるでしょう。その日が来ればお父さん安らかにお眠り下さい。

- 6 -